



東京2020文化オリンピックについて

2018年3月7日

(公財)東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

東京2020参画プログラムの枠組み

東京2020大会ビジョン

ビジョンの提示

スポーツには世界と未来を変える力がある。

すべての人が自己ベストを目指し（全員が自己ベスト）、一人ひとりが互いを認め合い（多様性と調和）、そして、未来につなげよう（未来への継承）

アクション&レガシープラン

東京2020大会に参画しよう。そして、未来につなげよう。

一人でも多くの方が参画【アクション】し、大会をきっかけにしたアクションの成果を未来に継承【レガシー】するためのプラン

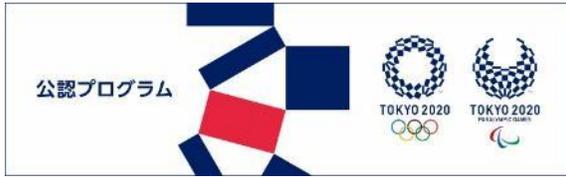
アクションやレガシーの方向性等を提示

東京2020参画プログラム (文化オリンピアド)

様々な組織・団体がオリンピック・パラリンピックとつながりを持ちながら、大会開催に向けた機運醸成やレガシー創出に向けたアクション（イベント、事業等）を実施できる仕組み

組織・団体のアクションへの認証・マーク付与

東京2020参画プログラムの枠組み



東京2020参画プログラム



東京2020 公認プログラム

- 各省庁、開催都市、スポンサー、JOC、JPC、会場関連自治体、大会放送権者、が実施
- 公認事業としての位置づけ

東京2020 応援プログラム

- 左記以外の自治体、非営利団体等が実施
- アクションの裾野を広げ、多くの人々が参画できることを目指す



東京2020参画プログラムの対象団体

公認プログラム

- 政府（各省庁）
- 開催都市（東京都・区市町村）
- スポンサー
- JOC、JPC
- 会場関連自治体（道県・市町）
- 大会放送権者

応援プログラム

公共関連

会場関連自治体以外の府県・政令市・市町村

地域関連

自治会・町内会等、商店街

スポーツ関連

国内競技団体、体育協会等

学校関連

連携大学 その他の大学、高専、専修・各種学校

経済関連

商工会議所、商工会、経済界協議会

国際関連

国際機関、大使館

公益法人等

公益財団・社団、認定NPO、社会福祉法人、独立行政法人・特殊法人（除く株式会社）等

その他 非営利団体

一般財団・社団、NPO 等
（公的団体等による主体者確認書の提出が必要）

■ 主体者登録数（参画プログラム全体）

1,386団体が参画

- ・自治体では、都道府県:45団体、市町村:317団体から登録いただくなど全国への拡がり（ホストタウン登録除く）

■ 文化オリンピックプログラム実施件数

1,354件を認証

申請は、「東京2020参画プログラム特設サイト」から

<https://participation.tokyo2020.jp/jp/>

ガイドライン等
申請方法の詳細はこちらから

TOKYO 2020 TOKYO 2020 PARALYMPIC GAMES

東京2020 参画プログラム

[ホーム](#) [探す](#) [実績紹介](#) [参画プログラムとは](#) [教育プログラム](#) [参画する](#)

参画プログラムを申請する

- > [初めての方](#) (「申請の流れ」へ)
- > [申請済みの方](#) (「マイページ」へ)

スペシャル
ONE TEAM PROJECT

> [イベント詳細へ](#)

朗読 鈴木亮平
林真理子
オリンポスの祝祭

2020年に向けて（東京2020 Nipponフェスティバル）

2017年

2020年4月頃

7月24日～

東京2020大会の一つの大きな流れ

参画プログラムによる
大会に向けた機運醸成



東京2020 Nipponフェスティバル
の展開

- ・大会の盛り上げを最大化
- ・歴史に残るプロジェクト
- ・様々なステークホルダーの参画
- ・国内外への発信



聖火リレー

東京2020大会
開会式
閉会式

※写真右：©篠山紀信「東京キャラバン in 六本木」

TOKYO 2020

フェスティバルが目指す姿

参画

- 文化の祭典として、全ての人々が日本代表として参画でき、祝祭感のあふれるフェスティバルを目指します。

日本らしさ

- 脈々と続き、洗練されてきた私たちの文化を、オリンピック・パラリンピックの精神と共に様々な形で世界に示します。

卓越性

- オリンピック・パラリンピックならではの、前例にとられないプログラムを展開し、世界を驚かせます。

多様性

- 障がいの有無や人種の違いなど、それぞれの個性を認めた上で、分け隔てのない社会を目指します。

レガシー

- 新しいパートナーシップの誕生や若いアーティストの台頭、海外における日本のプレゼンス向上等、大会後のレガシーを創出します。

今後コンセプト（キャッチフレーズ等）を制作予定（例）Have Fun！

フェスティバルのロゴマーク制作について

ロンドン2012大会では…



ロンドン大会のマーク

左2つ：エンブレム 右：フェスティバルロゴマーク

- エンブレムから派生したロンドン2012フェスティバルのマークを制作
- 組織委員会のほか、参画した多くの団体がマークを使用し、全国への広がりをみせた

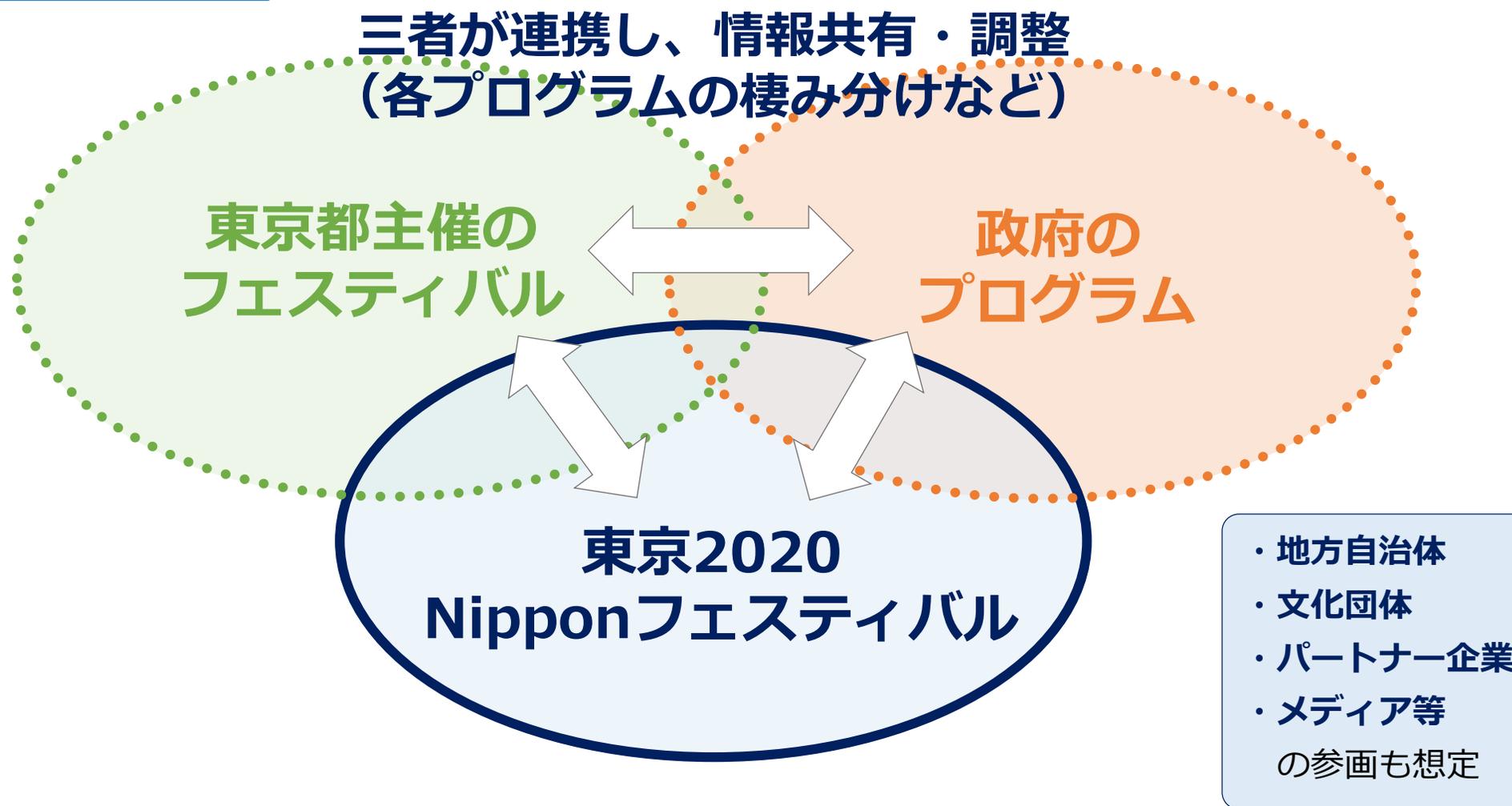
▶ 東京2020大会では、
フェスティバルの象徴となり、
全国へ拡がりのあるロゴマークを目指す

▶ エンブレムの制作者でもある
野老朝雄（ところあさお）氏に制作を依頼



ステークホルダーとの連携（イメージ）

大きな枠組み



文化の祭典でもあるオリンピック・パラリンピック
聖火とともに祝祭感あふれるプログラムを
オールジャパンで展開
～都道府県とも連携し、全国で実施～



2020年、 私たちの文化で世界を驚かそう。



様々な背景を持つ人々が交じり合い 分け隔てのない社会を目指す



東京にいなくても
オリンピック・パラリンピックに参画できる
全員が日本代表



フェスティバルの検討スケジュール



【参考】これまでの東京2020参画プログラムの展開



2016年10月

東京2020参画プログラム開始

2017年4月

東京2020教育プログラム(愛称:「ようい、ドン!」)の対象を全国に拡大

2017年5月

認証件数が**10,000件**を突破

2017年6月23日

夏祭りを応援プログラムとして認証開始

2017年7月1日~9月6日

東京2020大会3年前「3 Years to Go!」入りマーク提供

2017年7月20日

応援プログラムの対象を全国の非営利団体に拡大

WEBを利用した申請システムを導入

東京2020参画プログラム特設サイトを公開

2018年1月

主体登録が**1,000件**、アクション参加人数が**1,000万人**を突破

約2万件のアクションを認証